

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	
⑤英語力・指導力向上を目指した校内研修の在り方	京都市立朱雀第二小学校 研究主任 増田 悦子

新しい研修スタイル「ノート活用で英語力・指導力向上を目指す」

コロナ禍で校内研修の形もこれまで同様とはいかず、工夫が必要となる。そんな中、本校で取り組み始めて3年目となる「ノート活用」が大いに役立っている。本校では教員が一人一冊「Small Talk ノート」を持ち、授業で使う Small Talk を事前に台本を書いて準備する以外にも、広く教材研究や児童の様子、評価や研修からの学びを書き込んだり、資料を貼り付けたりして活用している。年度当初は、集合研修ができなかったため、互いのノートを見合って学びを共有し、コメントを返すことから始めた。「研究の歩みを止めない」を合言葉に、毎回このノートを活用して研修を進めている。

Small Talk 台本をノートに書く→やり取りする→振り返って記録する

(6年単元 What do you want to watch?)

子供の既習表現をつかんでおく。

子供に近い話題を選んで、言いたい気持ちにつなげる。

「スポーツをするのは好きではないけれど、見るのは好き」というような子供の実態を予想した表現を取り入れる。

子供にとって分かりやすい英語を使う。

やり取りのねらいを明らかにする。

研修企画の Point!

- ・研修では頻繁に6年単元を取り上げ、全教員が「小学校のゴールでつきたい力を知る」「それに向かって各学年の指導を積み上げる」ことの意識づけをする。
- ・生徒指導の三機能（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育む）を生かし、やり取りで授業を進めていることの意識づけをする。

新型コロナウイルス感染症拡大防止にあたり、学校の教育活動のみならず、私たちは、教員の研修の在り方についても再考を余儀なくされている状況です。そのような中、本校での、「ノート」上でのそれぞれの取組の交流は次のような視点で参考になると考えます。集合型の研修と比較したマイナス面ではなく、集合型の研修ではできないこと、プラス面に注目したいものです。例えば、自身の取組を書き表すことで、自身の取組をメタ認知できる、それにより過去の記録と比較して、自身の成長を感じることもできる。また、全教員が互いの取組状況を把握し、記述内容などによって励ましの声をかけるなどの支援を行うことで、学校がワンチームで取り組むことができる。この状況下、私たちは、知識や技能を駆使しながら、思考し、判断し行動に移していくことで、マイナスをプラスに替えていくことが求められています。ともに、この状況を乗り切えましょう。
(文部科学省視学官 直山 木綿子)